

## 『斧の柄』のアイヌ語

成 田 修 一

### 一、はじめに

江戸時代のアイヌ語を記録した資料が残されているが、板行された資料は多くはない。もっとも古いものは、「蝦夷国語」としてアイヌ語五四語を記録した『和漢三才図会』(正徳三年)<sup>(1)</sup>であるが、一方、後世に多くの影響を与えたのが、寛政四年跋、文化元年序を有し、約二七〇〇語のアイヌ語を記録した『藻汐草』<sup>(2)</sup>である。

この『藻汐草』の影響を受けたと思われる、アイヌ語を記録した俳諧書の資料がある。文化七(二八一〇)年から一〇年、及び文政元(二八一八)年から三年の二度、蝦夷地に渡った俳人、奥州白石出身の松窓乙二(以下、乙二と略称)が著した『斧の柄』<sup>(3)</sup>である。

本稿では、『斧の柄』に記録されたアイヌ語の部分について、先行書の『藻汐草』と比較、考察するものである。<sup>(4)</sup>

## 二、書誌的事項について

本稿で取り上げる『斧の柄』はこれまで幾度か翻刻がされている。<sup>5)</sup>以下、主に原本のマイクロフィルム複写（東京大学・酒竹文庫蔵）によつて、『斧の柄』の日本語見出し語及びアイヌ語を検討する。

さて、『斧の柄』に記録されているアイヌ語であるが、一四丁裏から一六丁表まで日本語―アイヌ語語彙集の形で、一二丁表の「斧の柄と名づけて僑居にうつりし時」と題する「折柴の猶ほそかれや爐のけふり 乙二」から、一四丁表の「筋違にさす腰の鋸 二」までの三七首に詠まれた言葉の中からアイヌ語に訳されたものが、日本語の見出し語七二語、それに対するアイヌ語が九〇語記録されている。<sup>6)</sup>

この日本語―アイヌ語語彙集に続いて、次のような説明がある。

これはこの両喙につくり入たるを、いさゝかしるしてかたはらに蝦夷の言葉を附ス。しかれとも東西の蝦夷地と呼ぶ嶋々若干の上、数百里を隔たる所々ありて、同じ鳥獸艸木等の名、常の言葉にも大に違ふ事ありとぞ。爰にかきのせたるを證とすへからず。たゞ雅人団欒の時の談柄に備ふのみ。<sup>7)</sup>

次に、一八丁裏から二〇丁表までに、一六丁裏「抱籠やとほし消ても物いはす 草琺」から一八丁裏「五形を賣れば買もする春 二」までの三六首に詠まれた言葉の中からアイヌ語に訳されたものが、日本語の見出し語六四語、アイヌ語が七九語記録されている。この日本語―アイヌ語語彙集に続いて、

右両吟之内の言葉

とある。

さらに、二〇丁裏から二四丁裏までは、俳句中の言葉とは関係なく、日本語の見出し語一六七語に対し、アイヌ語一八六語を記録している。<sup>8)</sup>

なお、七丁表本文中の「アイノ」に対し、「アイノハエソノ事」、八丁裏の本文中の「メノコシ」「シヤモ」に対し、それぞれ「メノコシハ女エソノ事」「シヤモハ人間ノ事」の頭注がある。

また、二八丁表には

(ウリ、	(ナノ	(ナア	(トナス	(イヨス	(コイ
鵜の	つらに	もそつと	いそけ	跡の	波
					、(筆者注、布席のこと)

二八丁裏には

(ニシヤツタ	(ナヨツ	(アツケ	(イタキ	(シユく	乙二
けさ	虹を	うけしとも	いふ	柳かな	

と、俳句に直接アイヌ語の語釈をしたものがある。

### 三、見出し語について

#### (1) 分野別比較

俳句中の語(二八丁の語釈の数も加えた)をアイヌ語に訳した数は、日本語の見出し語一四七語に対し、アイヌ語一八〇語である。

これら日本語の見出し語を『藻汐草』の分野別部立てと比較すると、次のようになる。

分野別収録範囲( )内は、『藻汐草』の本文中の部立て名

天地(天地)

三〇

人物(人物)

八

支体（支体死活）	一一
世事（世事）	一九
口鼻耳目心（口鼻耳目心）	一四
器財（器財）	一八
鳥獸（鳥獸魚虫）	一〇
草木（草木）	九
品目（品目）	六
助語（助語）	五
該当なし <sup>9)</sup>	一七
一方、俳句中の語と関係ない部分での数（七、八丁の語を加えた数）は、日本語見出し語一七〇語に対し、アイヌ語は一八九語を記録している。	
これらの分野別収録範囲は、	
天地（天地）	三六
人物（人物）	七
器財（器財）	一
鳥獸（鳥獸魚虫）	五七
草木（草木）	五八
該当なし	一一

となる。

一方、俳句中の語と関係ない部分での数（七、八丁の語を加えた数）は、日本語見出し語一七〇語に対し、アイヌ語は一

以上の結果から、総数は、日本語見出し語数三一七語、アイヌ語数三六九語である。

分野別収録範囲（重複するものも含む）の内訳は、

天地（天地）	六六
人物（人物）	一五
支体（支体死活）	一一
世事（世事）	一九
口鼻耳目心（口鼻耳目心）	一四
器財（器財）	一九
鳥獸（鳥獸魚虫）	六七
草木（草木）	六七
品目（品目）	六
助語（助語）	五
該当なし	二八

である。

総数において、『藻汐草』と比較すると、日本語の見出し語の一致率は九一・二％、アイヌ語の一致率は八九・四％である。ほとんどが『藻汐草』からの引用と考えられるが、その中にも次のような違いがある。

## （２）日本語の見出し語表記について

『藻汐草』との比較において、俳句中の日本語の見出し語表記に、次のような違いが見られる。（以下、『斧の柄』は『斧』、

『藻汐草』は『藻』と略記し、一二丁表は12才、一二丁裏は12ウと表記した。

① 『斧の柄』で送りながが省略されている場合

○折柴の猶ほそかれや炉のけふり	12才	『藻』折る	25才	29才	『斧』折	14ウ
○鴈をさそふてうつるむしろ帆	12ウ	『藻』誘ふ	26才		『斧』誘	15才
○鳥がさはれはきゆるしら雲	13才	『藻』白い	70ウ		『斧』白	15ウ
○山遠くかへる飴のあはれなり	13ウ	『藻』遠い	4才		『斧』遠	15ウ
○老夫婦花の日和をよく覚へ	14才	『藻』覚へ	31ウ		『斧』覚	16才

○『藻』耕す 67才 『斧』耕 22ウ

○『藻』濁り酒 68ウ 『斧』濁酒 22ウ

② 送りながが『藻汐草』はひらがな、『斧の柄』がカタカナの場合

○鳥がさはれはきゆるしら雲	13才	『藻』消ゆる	71ウ	『斧』消ル	15ウ
○いつも蛙の声がきこゆる	17ウ	『藻』聞ゆ	38才	『斧』聞ユ	19ウ

○『藻』凋む 64才 『斧』凋ム 21ウ

○『藻』作る 67才 『斧』作ル 22ウ

③ ひらがなが異なる

○幾すちもしら髪のかえる旅のうへ 18才 『藻』ふへる 70才 『斧』ふえる 20才

○『藻』いのころ柳 63ウ 『斧』ゑのころ柳 21ウ

(参考 猫柳―えのころ柳 季語―春)

④見出し漢字が異なる

○迷子を見つけて帰る親を見て	12ウ	『藻』返る	24才	『斧』帰	15才
○追やる蟹のすかる敷もの	16ウ	『藻』逐ふ	23ウ	『斧』追	18ウ
○『藻』坂	5才	『斧』阪	21才		
○『藻』岡	4ウ	『斧』陸	21才		
○『藻』砥草	65才	『斧』木賊	22才		

⑤見出し語が『藻汐草』はひらがな、『斧の柄』が漢字の場合

○『藻』あられ	4才	『斧』霰	20ウ
○『藻』たんぽゝ	65才	『斧』蒲公英	22才
○『藻』みゝず	60ウ	『斧』蚯蚓	22ウ
○『藻』ふくろ	58才	『斧』梟	23才
○『藻』ぶり	53才	『斧』鰯	23ウ

⑥見出し語が『藻汐草』になく、『斧の柄』にある場合

○ぬくひまもなくならふ雪沓	12才	雪	14ウ
○迷子を見つけて帰る親を見て	12ウ	迷	15才
○山遠くかへる筈のあはれなり	13ウ	筈	16才
○空	20ウ		
○蝸牛	23才		
○野蒜	23才		

○鶏 23ウ

等 二十八語

⑦『斧の柄』の見出し語が、重複している場合

○月 14ウ 20ウ

○笹 15才 21才

○雲 15ウ 20ウ

○鷹 16才 23才

○枝 19才 21ウ

○春 20才 21ウ

等 十五語

⑧語彙集部分に採録する際に、採録語の順序が異っている場合

○きたなきまてに羽のぬける鷺 12ウ

○迷子を見つけて帰る親を見て 12ウ 『斧』迷 15才 鷺 15才（本来は、鷺→迷の順序である）

○哀雀の寒かつて居る 17ウ 『斧』居 19ウ 寒くすくんで居る事 19ウ 雀 19ウ

○花の香につふれみかんも匂ふ也 18ウ 『斧』匂ふ 20才 香ばしい 20才

#### 四、アイヌ語について

(1) アイヌ語の表記について

①『藻汐草』で濁音（半濁音）表記が、『斧の柄』で清音表記された場合

○居 『藻』（居る）ヲガイ 33ウ 『斧』ヲカイ 19ウ ガ↓力



○種	『藻』ビエ	67オ	『斧』ヒエ	22ウ	ビ↓ヒ
○沖	『藻』レプタ	3ウ	『斧』レフタ	20ウ	プ↓フ
○日	『藻』ベケレチュツプ	3オ	『斧』ヘケレチュツプ	20ウ	ベ↓ヘ
○爐	『藻』イヌンベ	7ウ	『斧』イヌンヘ	14ウ	ベ↓ヘ

逆の場合もある。

○虱	『藻』ウルキ	60ウ	『斧』ウルギ	22ウ	キ↓ギ
○簾	『藻』アブスケ	45オ	『斧』アブスゲ	16オ	ケ↓ゲ

また、半濁音表記が濁音表記された場合がある。

○鹿「牡」	『藻』アプカ	51オ	『斧』アプカ	19ウ	プ↓ブ
-------	--------	-----	--------	-----	-----

②ヅをツまたはトで表記している場合

『藻汐草』でㇿを表記するのにヅを用いているが、『斧の柄』ではツ又はトと表記されている。

○盃	『藻』ゾーキ	45オ	『斧』トキ	15ウ		
○海	『藻』アツイ	3ウ	『斧』アツイ	20ウ		
○坂	『藻』シリコツル	5オ	『斧』(阪)シリコツル	21オ		
○虎杖	『藻』シツクツ	イコクツ	65ウ	『斧』シツクツ	イコクツ	22オ

③読み違いの場合

○小蟹	『藻』ビホクンベ	54ウ	『斧』ビホリンベ	18ウ	ク↓リ
○胡桃	『藻』子シコ	62ウ	『斧』子シロ	21オ	コ↓ロ
○酒	『藻』シヤケ	68ウ	『斧』ンヤケ	22ウ	シ↓ン

○餅 『藻』シツト 69オ 『斧』シウト 22ウ ツ↓ウ

○白い 『藻』テタル 70ウ 『斧』(白)チタル 15ウ テ↓チ

○情 『藻』ラムヲテツケン 39オ 『斧』ラムヲラツケン 15ウ テ↓ラ

○みゝず 『藻』トニン 60ウ 『斧』(蚯蚓)トコシ 22ウ ニ↓コ ン↓シ

○いのころ柳 『藻』トイシユ〜 63ウ 『斧』(ゑのころ柳)トイシコ〜 21ウ ユ↓コ

○梓 『藻』イワキシニ 63オ 『斧』イハキシニ 21ウ ワ↓ハ

## ④『藻汐草』の欠画による場合

○鹿 牝 『藻』ホンユク 51オ 『斧』ホンフク 19ウ ユ↓フ

## ⑤文字の脱落(書き忘れ)の場合

○雀 『藻』シヤイコツチリ 57ウ 『斧』シヤイコチリ 19ウ ツ↓脱落

○日和 『藻』ニシヨロアン 7ウ 『斧』ニシヨアン 16オ ロ↓脱落

## ⑥傍線の有無(位置)の場合

○椴 『藻』トゝロツプ シラライ 63オ 『斧』トゝロツプ 21ウ

○葡萄 『藻』ハツ 62ウ 『斧』(蒲萄)ハツ 21ウ

○萩 『藻』シンゲフ 62ウ 『斧』シンケフ 21ウ

○山鳩 『藻』ヅゝツテ 58ウ 『斧』ヅゝツテ 23ウ

○ふぐ 『藻』ユルシカセツプ 53ウ 『斧』(鰻)ユルシカセツプ 24オ

## ⑦彫り残しがあつたため、二語と受け取られている場合

○小鴨 『藻』コベ▲ツチャ 58オ 『斧』ツチャ 23オ

(2) 『藻汐草』で複数語表記されている場合の『斧の柄』の採録状況

『藻汐草』に複数の語が収録されている場合があるが、その場合、『斧の柄』ではどういう採録傾向があるか調べてみると、次のような結果となった。

① 『藻汐草』に二語記録されている場合の、その一語目を『斧の柄』で採録している場合が四一例あった。同じく三語中の一語目を採録している場合が一一例、四語以上が記録されている場合で一語目を採録している場合が四例あった。これらを現代のアイヌ語方言辞典<sup>(9)</sup>(以下、現代方言と略称。なお、各方言名は次のように略記した。八雲Ⅱ八、幌別Ⅱ幌、沙流Ⅱ沙、帯広Ⅱ帯、美幌Ⅱ美、旭川Ⅱ旭、名寄Ⅱ名、宗谷Ⅱ宗、樺太Ⅱ樺、千島Ⅱ千)と比較してみると、

○二語中の一語目を採録

八	幌	沙	帯	美	旭	名	宗	樺	千
二八	一三	一五	一一	一二	一〇	一二	一三	五	四
(六・三%)	(三・七%)	(三・六%)	(二・八%)	(三・三%)	(二・四%)	(三・三%)	(三・七%)	(二・二%)	(九・八%)

○三語中の一語目を採録

八	幌	沙	帯	美	旭	名	宗	樺	千
二	三	三	二	二	四	一	〇	一	〇
(二・二%)	(二・七%)	(二・七%)	(一・二%)	(二・二%)	(三・四%)	(九・一%)	(〇%)	(九・一%)	(〇%)

○四語以上の一語目を採録

八	幌	沙	帯	美	旭	名	宗	樺	千
三	二	二	二	二	一	二	一	一	二
(七・〇%)	(五・〇%)	(五・〇%)	(五・〇%)	(五・〇%)	(三・〇%)	(五・〇%)	(三・〇%)	(三・〇%)	(五・〇%)

千	〇	二	一	二	一	二	四	八
樺	〇	二	一	二	一	二	四	八
宗	〇	二	一	二	一	二	四	八
名	〇	二	一	二	一	二	四	八
旭	〇	二	一	二	一	二	四	八
美	〇	二	一	二	一	二	四	八
帶	〇	二	一	二	一	二	四	八
沙	〇	二	一	二	一	二	四	八
幌	〇	二	一	二	一	二	四	八
千	〇	二	一	二	一	二	四	八

○二語中二語とも一致	八	幌	沙	帶	美	旭	名	宗	樺	千
○二語中どちらが一致	一	○	一	○	二	○	一	○	○	○
二	二	四	二	三	二	三	一	○	二	一

八  
幌  
沙  
帶  
美  
旭  
名  
宗  
樺  
千

(三語一致)

(二語一致)	一								
(一語一致)	一	三	二	一	二	一	二	一	二

○五語中四語採録

(四語一致はなし)									
(三語一致)						一			
(二語一致)	一		一	一				一	
(一語一致)						一			

⑤『藻汐草』に三語及び四語記録されている場合に、『斧の柄』でも各々三語、四語とも全て採録している場合が二例及び一例あった。

八 幌 沙 帯 美 旭 名 宗 樺 千

○三語中三語採録

(三語一致はなし)									
(二語一致はなし)									
(一語一致)	一	一	一	一	一	一	一	一	

○四語中四語採録

(四語一致はなし)									
(三語一致はなし)									
(二語一致はなし)									
(一語一致)	一	一	一	一	一	一	一	一	一

僅かな語数に基づく比較であり、統計的には不十分であるが、採録の状況を少しは伺い知ることが出来るようである。

## 五、その他の違い

### ① 日本語見出し語に対応するアイヌ語が異なる

『藻』寝る	ヒシユイ	20才	『藻』眠 <sup>ヨ</sup> ふ	モコロ	20才	↓	『斧』寝	モコロ	15ウ
『藻』従 <sup>ヨリ</sup>	ヲロワ	75才	『藻』自 <sup>ヨリ</sup> イカリ	75才	↓	『斧』従	よりといふ言葉 <sup>①</sup>	イカリ	19ウ
『藻』黒百合	ハル▲アレラコル▲シラコル	66才							
『藻』姥百合	ツレプ	66才			↓	『斧』黒百合	ツレプ	22才	

### ② 『藻汐草』でいくつか挙げられている語の中から、特定のものを採録

『藻』60才・60ウに「蛙」があるが、ひき／かわづ／土中に居る／青色とあるなかで、『斧』は青色を採録。

『藻』蛙	ひき	テレケイベ	60才	『斧』蛙	青色	コケ／＼ツ	22ウ
------	----	-------	-----	------	----	-------	-----

かわづ トウロンカモイ

土中に居る ヲアツ

青色 コケ／＼ツ 60ウ

ヲポンバキ

テレケイモ

### △参考▽「現代方言」

かえる	terkiye	八	terkepi	幌	terkeype	沙	kelketcep	沙(アマガエル)
to'orunpe	帯(ヒキガエル)				o'owat	美	o'o'at	旭・名
						oponpaki	名・宗	

opunpaki 樺 niahkorokuh 樺 (ガム)

③藻汐草より多く記載

『藻』風 レイラ 5才 ↓ 『斧』風 レラ レイラ 14ウ

〈参考〉[現代方言] 風 réra ハゝ宗 reera 樺 re'ra 千 reara 千

『藻』鴈 グイト 57ウ ↓ 『斧』雁 グイト クイトフ 15才

〈参考〉[現代方言] がん kuytop ハ・沙・帯・美・旭・名 kuytok 宗

『藻』霧 ウーラリ 3才 ↓ 『斧』霧 ウーマウ ヘマウ 20ウ

〈参考〉[現代方言] 霧 urar ハ(ガス)・沙(ガス)・帯・旭・名・宗

④方言表記

『斧の柄』中の採録語(俳句中の語も含む)にも、『藻汐草』で地域表記がある語がいくつか含まれている。

『藻』雪沓 ケリ からふと嶋キ口 46才 『斧』雪沓 ケリ 唐太ニテハ キ口 14ウ

『藻』鰯 ヘレクシ▲ノトロ沼異魚 カフト 『斧』鰯 ヘレクシ 唐太ニテハ カンカイ 24才

カラフトニテハ カンカイ 54才

六、新しい記録のアイヌ語について

『藻汐草』になく、新しく『斧の柄』に加わった語は三九語である。このうち、日本語見出し語が『藻汐草』にない二八語について、『斧の柄』が刊行された文化一〇年以前の主な資料と比較した結果、「雪」のアイヌ語「ウハシ」が『和漢三才図会』『蝦夷拾遺』に、「空」のアイヌ語「ニシヨロ」が『蝦夷草紙』にその語形が記録されているが、それ以外については

同じ語形を見いだせない。

また、『藻汐草』に見出し語があるが、該当するアイヌ語が『藻汐草』にない一一語について、同様に比較した結果、「風」のアイヌ語「レラ」が『和漢三才図会』にその語形が記録されている以外、記録がない。

一方、『斧の柄』以後の主な資料と比較すると、「雪 ウハシ」が『蝦夷語集』『番人円吉蝦夷記』、「空 ニシヨロ」が『蝦夷語集』、「嵐 タシクロ」が『蝦夷語集』、「風 レラ」が『蝦夷語集』『番人円吉蝦夷記』等に各々見出し出すくらいで、記録がない。

次に、この三九語を現代のアイヌ語方言辞典と比較してみると、

八	幌	沙	帯	美	旭	名	宗	樺	千
九	六	一一	一一	一三	一三	一一	七	二	三
	(二三・二%)	(二五・四%)	(二八・二%)	(二八・二%)	(三三・三%)	(三三・三%)	(二八・二%)	(二七・九%)	(〇・五%)
								(〇・八%)	

という結果になった。

## 七、まとめ

以上、『斧の柄』に記録されたアイヌ語などについて概観してみた。ほとんどが『藻汐草』からの採録であるが、前述のように新たに記録されたアイヌ語もある。

これらの新しく記録されたアイヌ語について、その手掛かりとしては『斧の柄』の紀行文中に、

歩行よりしひとり此倅か馬に乗て出来るを見るにアイノをたのみて連立しなりけり、浅しと見ゆる川上よりアイノ馬打入てこなたの岸に着、(6ウ)



サルという地よりアイノともよひのほされて、此あるしにあつけられ中継はアイノ等かつとむるよし、(8才)

とあるところから、日高・沙流地方のアイヌ語が反映された可能性もある。また、乙二を蝦夷地に招いたのは吉田清兵衛(布席)であるが、その養父伊達林右衛門、伊達家は寛政八年以来増毛・浜益場所を請負っていた場所請負人で、文化六年以後は北蝦夷地(樺太、今のサハリン)の場所も請負うようになった。このことから、西蝦夷地乃至北蝦夷地のアイヌ語を記録した可能性もある。さらに、乙二が箱館から松前の地域以外には出かけていないという状況から、地域的なものとして、北海道南部、松前周辺のアイヌ語を記録した可能性もある。

これらのことから、当時の他の資料にも記録されずに、この『斧の柄』だけに記録されている場合をどう考えるか。作者の造語であるのか、滅びた方言であるのか。今後の研究課題である。

#### 注

(1) 田中聖子・佐々木利和「近世アイヌ語資料について」とくに『もしほ草』をめぐって「松前藩と松前」二四 一九八五年 松前町史編集室。拙稿「江戸時代のアイヌ語」『言語』一四巻二号 一九八五年 大修館書店。

(2) 本稿では、金田一京助解説 成田修一撰『アイヌ語資料叢書 藻汐草』一九七二年 国書刊行会 を使用した。拙編『近世の蝦夷語彙』《もしほ草》篇 一九七七年 私家版。

『藻汐草』の著者については、佐々木利和「蝦夷通詞・上原熊次郎のこと」『季刊どるめん』六号 一九七五年 JICC(ジック)出版局 参照。なお、乙二は一八一(文化八)年、箱館で貴重な体験をした。すなわち、文化八年から一〇年にかけての、いわゆる「ゴロウニン事件」である。このゴロウニン事件の際、『藻汐草』の著者上原熊次郎は通訳としてその任にあたった。

(3) 新田孝子「松窓乙二の北海道渡行に就いて」『箱館記行』批判『季刊文学・語学』第三九号 一九六六年 三省堂。

新田孝子「松窓乙二の再度北海道渡行に就いて」『をのゝえ草稿』をめぐって『季刊文学・語学』第四八号 一九六八年 三省堂。

新田孝子「東北大学附属図書館蔵未刊資料「松窓翁反故」の考察」松窓乙二の北海道渡行に就いて『図書館学研究報告1』吉岡・矢島両氏功績記念号 一九六八年 東北大学附属図書館。

大嶋寛『北の芭蕉 松窓乙二伝』道新選書二七 一九九三年 北海道新聞社。

白石市史編さん委員編『白石市史3の(1) 特別史(中)』一九八一年 白石市。

(4) このことについて、谷沢尚一氏の次のような指摘がある。

「藻汐草」の引用に関連してちよつとお尋ねしたいんですが、「蝦夷語」が成立したのが嘉永三年だとすれば一八五〇年じゃないかと思いますが、それより四十年前即ち文化十年に「藻汐草」から引用したと思われる語彙が俳諧書に載っているわけです。乙二の『斧の柄』です。『斧の柄』の中にたしかアイヌ語が三〇〇語以上は載ってたように記憶しておるんですが、少なくとも九〇%は「藻汐草」から取ったと思われる節があり、それ以外にまだ疑問のものが

あつて、当然チェックの必要があるんですが、（松浦武四郎研究会編『シンポジウム「松浦武四郎」 北への視角』一九九〇年 北海道出版企画センタ  
ー）

(5) 代表的なものは次のとおりである。

『俳諧叢書 第六冊 「俳人逸話紀行集」 佐々醒雪・巖谷小波編 大正四年 博文館。

『日本俳書大系 第一三巻 「近世俳諧名家集」 昭和二年 日本俳書大系刊行会。

『校註俳文学大系 第一巻 「七部集総覧編 第三」 俳文学大系刊行会 昭和五年 東方書院。

『古典俳文学大系 一六 「化政天保俳諧集」 宮田正信・鈴木勝忠校注 昭和四六年 集英社。

『白石市史 3の(1) 特別史(中)』白石市史編さん委員 昭和五六年 白石市。

(6) このことについて、つぎのような報告がある。

「本書はアイヌ語が記されているので有名だが、乙二来車との両吟歌仙「折柴の」の巻の次に七二語ほど、草瑠と乙二との同じく「抱籠や」の巻の次に六  
一語ばかり、「右両吟之内こと葉」として、さらに其の次に一六七語を、いずれも和——夷辞彙の形で採録してある。（『白石市史』）

文化七年九月半に渡道してから二年そこそこで、当時これだけの語彙をつくれたのは、むろん布席らの助力であつたろうが、乙二の努力と頭脳との証明と  
みてよからう（大島前掲書）

(7) 『藻汐草』跋文に、次のように記されている。

「蝦夷方言跋」

蝦夷地東西の諸島を廻るのあいだ旁午の遑を忍むで方言を書あつめたれども里人の音韻を聞得さることも少からず且記すに倭字を用ゆる軌に当らざる  
ことも多し極めて誤あるべし訂さんと欲すれども東西千里再問すること甚難し後來同志の友是を正さんことを願ふのみ

寛政四年五月四日

通辞 上原熊治郎  
支配 阿部長三郎

(8) 「老夫婦」(16才)は(老<sup>カヤ</sup>)(夫<sup>ホタ</sup>)婦<sup>マツ</sup>へカイホクマチのようにそれぞれアイヌ語の語釈がされているが、「へカイホクマチ」の一語とした。

(9) 『斧の柄』の日本語見出し語が『藻汐草』にない場合、該当なしとした。

(10) 『アイヌ語方言辞典』服部四郎編 一九八一年(第二刷) 岩波書店。

(11) 『藻汐草』に見出し語が二つ(併記されている)あるが、『斧の柄』では同じ見出し語からではなく、異なる見出し語から採録している。

『藻』 従(ヨリ) ヲロワ 75才

『斧』 従 イカリ よりといふ言葉 19ウ

自(ヨリ) イカリ 75才

(12) 田中・佐々木前掲書(1)

拙稿前掲書(1)

(13) 田中・佐々木前掲書(1)

拙稿前掲書(1)

(14) 服部前掲書(10)